

#### 主要製品・サービス

### スマートコミュニケーション部門

- イメージングコミュニケーション関連
- 情報セキュア関連
- コンテンツ・XRコミュニケーション関連
- マーケティング関連
- 出版関連
- 教育関連

スマートコミュニケーション部門の主な事業は、世界トップシェアの昇華型熱転写記録材を含む「イメージングコミュニケーション関連」、BPOや認証セキュリティ等に代表される「情報セキュア関連」、新規事業である「コンテンツ・XRコミュニケーション関連」のほか、「マーケティング関連」、「出版関連」、「教育関連」が挙げられます。

当部門では、高精細画像処理技術に加え、BPO事業で培ってきた、大量のデータをセキュアに流通させ、煩雑で広範なビジネスプロセスを統合・最適化させる能力といった強みを活かし、国内外の企業と協業しながら、サービス開発などを推し進めています。

#### 基本戦略

- ▶ 投下資本とキャッシュ創出のバランスを見ながら効率投資
- ▶ コアバリューを活かし、国内外の企業との協業・サービス開発を検討
- ▶ 市場トレンド・事業規模に応じた拠点・体制の適正化

#### KPI (2025年度)

- ▶ 売上 **7,260**億円 (2022年度比 101%)
- ▶ 営業利益 **310**億円 (2022年度比 116%)

#### 施策

- ▶ イメージングコミュニケーション関連、情報セキュア関連でグローバル拡大投資を検討
- ▶ 紙メディア事業の合理化

#### DNPの強み

- ▶ 高精細画像処理技術や、大量のデジタルデータ等をセキュアに流通させ、ビジネスプロセスを統合・最適化させる能力を活かし、新しい顧客体験価値を提供
- ▶ 世界トップシェアの昇華型熱転写フォトメディア製品や、国内トップシェアの金融機関向けICカード等による実績と信頼

#### コアテクノロジー例

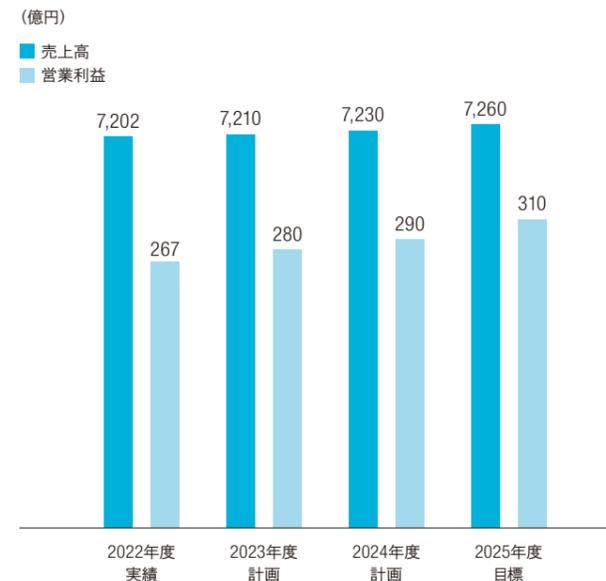


投下資本に対して最大限の利益を生み出すような効率的・効果的な投資をめざします。拡大投資としては、市場の拡大が見込まれる「情報セキュア関連」や堅調な市場である「イメージングコミュニケーション関連」について、グローバルな拡大などへの投資を検討していきます。

一方、減少が続く紙の印刷物については、引き続き生産体制の見直しやリソースの再配置などの構造改革に取り組み、紙メディア事業の合理化を推進していきます。

当部門の2022年度の売上は7,202億円、営業利益は267億円であり、2025年度には売上7,260億円、営業利益310億円をめざします。

#### 売上高・営業利益目標



#### 市場環境

国内BPO市場	2022年 → 2026年 <b>4.6兆円 → 5兆円</b>
デジタルIDソリューション世界市場	2021年 → 2030年 <b>CAGR 17%</b>
昇華型熱転写フォトメディア製品世界市場	2023年 → 2026年 <b>CAGR 2%</b>
メタバース関連世界市場	2030年 <b>6,788億ドル</b>

※CAGR (Compound Annual Growth Rate) : 年平均成長率

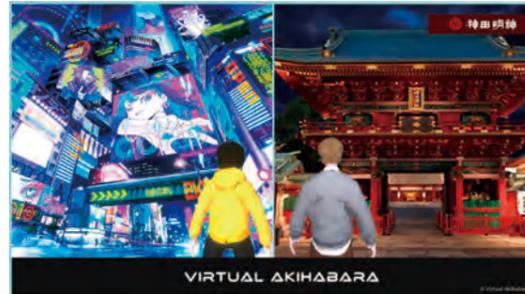
注力事業領域の戦略

新規事業

コンテンツ・XRコミュニケーション関連

DNPIは、世界中の多様なコンテンツホルダーやクリエイターとのネットワークを強みとしています。また、アーカイブ事業や情報セキュリティ関連で培った高精細画像処理技術、複雑な著作権処理等の実績、そして個人や情報を安全に認証しながらリアルとバーチャルの双方で大量のデータをセキュアに流通させ、複雑で広範なビジネスプロセスを統合・最適化させる能力などを有しています。

これらの強みを起点として、リアルとバーチャルとを安全にシームレスにつなぎ、情報社会の進化に貢献していきます。メタバース関連の世界市場は、さらに大きく拡大する見通しであり、DNPでも「新規事業」として本事業の拡大に努めていきます。この分野では、2025年度には、2022年度の約2倍の売上をめざしています。



リアルとバーチャルの空間を融合する「バーチャル秋葉原」



バーチャル東京アニメセンター  
© The Association of Japanese Animations (AJA).  
© Dai Nippon Printing Co., Ltd.



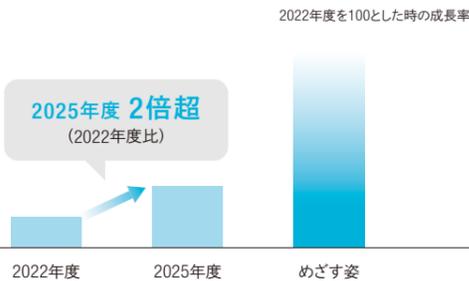
DNPバーチャルエクスペリエンス  
VRプレゼンテーション  
データ提供元：安心計画株式会社様

事業戦略・投資計画

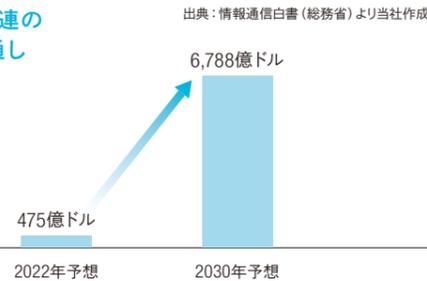
- ▶ IPホルダー※のファン向けに、東京アニメセンターやWeb3を活用し、リアルとバーチャルを横断する独自のファンサービス事業の早期事業化
- ▶ 認証セキュリティ技術、AIによるDXサービス、BPOを含めた企業活動をリアルとバーチャルの双方で支える事業の構築
- ▶ 国内外の美術館・ギャラリー・文化施設等とともに10万点以上の作品をデジタルアーカイブ化した実績をもとに、文化・地域の発展につながる新しい顧客体験価値を提供する事業の構築

※ IP (intellectual property) ホルダー：ゲームやアニメをはじめ、さまざまなコンテンツ (知的財産) を保有している人や団体のこと

売上計画



メタバース関連の世界市場見通し



TOPIC

DNPコンテンツインタラクティブシステム「みどころウォーク®」

DNPIは2006年にスタートさせた「DNPミュージアムラボ」の取り組みより、新しい鑑賞体験を提供する100種類以上の鑑賞向けインタラクティブシステムを開発してきました。「みどころシリーズ」はこれまで培ってきた技術・ノウハウを活かし、文化・芸術に関連するさまざまな体験シーンを想定して開発したシステムです。

そのひとつの「みどころウォーク®」は、人の五感の相互作用である「クロスモーダル知覚」を活かした鑑賞システムです。VR (仮想現実) を活用して、例えばフランス国立図書館リシュリュー館のマザラン・ギャラリーなどを実際に歩いているかのような「新しい文化体験」を提供しています。



「みどころウォーク」を活用したマザラン・ギャラリーVR空間体験イメージ  
©DNP Dai Nippon Printing Co., Ltd. 2021.  
with the courtesy of the Bibliothèque nationale de France.

基盤事業の推進

イメージングコミュニケーション関連

昇華型熱転写フォトメディア製品・コトづくり

DNPIは、コーティング等の印刷技術をもとに開発した昇華型熱転写記録材で、世界トップのシェアを獲得。写真の楽しみ方が時代とともに変化するなかで、写真プリント等に使うこれらの製品や各種サービスを強みとして、フォトイメージング事業を展開しています。近年は特にスマートフォンやSNSの広がりによって、プリント (モノ) だけではなく体験 (コト) の価値に対する生活者ニーズが高まっています。それに対してDNPIは、写真の撮影から加工・プリント販売まで行うサービスや、クラウド型の画像販売サービスなどを、高セキュリティなインフラと体制で個人情報を守りながら、幅広く提供しています。



昇華型熱転写記録材

TOPIC

DXを推進し写真撮影に関連する新しいサービスの展開を加速

日本全国に設置されている証明写真機「Ki-Re-i」をネットワークでつなぎ、公的な証明書や各種資格証などの電子申請業務を支援します。社員証等の作成にも、「Ki-Re-i」で撮影した顔写真を収集・活用する顔写真収集サービスを提供するなど、用途の拡大に努めています。またテーマパークやイベント会場等で、生活者が写真を一層楽しめるような、体験価値を高める各種サービスを国内外で提供していきます。



写真関連サービスソリューション

情報セキュア関連

BPO (Business Process Outsourcing)

BPO事業では、国内外の拠点での24時間・365日の対応に加え、AI (人工知能) やRPA\*等の最新技術の導入を進めています。人手不足や働き方改革によるBPR対応など、社会的な需要の拡大に対し、より効率的かつスピーディーに、企業・団体等の業務課題解決のためのサービスを提供しています。

※ RPA (Robotic Process Automation) : AIを活用したロボット (ソフトウェア) による業務自動化



認証・セキュリティ

DNPIは、高度な認証・セキュリティの関連技術やシステム基盤を構築・運用し、国内トップシェアのICカード事業や高度なセキュリティ技術が求められる決済サービス事業、セキュリティゲートや監視カメラなど、オフィスや工場等への物理的セキュリティの提供もしています。また、デジタルキー等による「モノの認証」や顔認証等による「ヒトの認証」のサービスを中心に、データ関連と物理的な側面を掛け合わせた強固なセキュリティ環境を多様な業界に提供しています。



部門別事業戦略 **ライフ&ヘルスケア部門**



主要製品・サービス

**ライフ&ヘルスケア部門**

- モビリティ・産業用高機能材関連
- メディカル・ヘルスケア関連
- 包装関連
- 生活空間関連
- 飲料事業

ライフ&ヘルスケア部門の主な事業は、世界トップシェアのリチウムイオン電池用バッテリーパウチや、モビリティ用内外装の加飾材に代表される「モビリティ・産業用高機能材関連」、医薬品製造や医療パッケージ等を含む「メディカル・ヘルスケア関連」、国内トップシェアのPETボトル用無菌充填システムや住宅用の内外装化粧材等をはじめとした「包装関連」と「生活空間関連」、そして「飲料事業」が挙げられます。

当部門では、リチウムイオン電池用バッテリーパウチの製造設備や「メディカル・ヘルスケア関連」を中心とした注力事業への投資に加え、既存の「包装関連」や「生活空間関連」のグローバルな拡大への投資も推し進めます。

基本戦略

- ▶ バッテリーパウチを中心とした大型設備投資で事業を拡大
- ▶ メディカル・ヘルスケア関連やグローバルを中心とした成長分野への投資
- ▶ コアバリューを活かした新製品開発や、国内外の企業との協業・サービス開発を検討

KPI (2025年度)

- ▶ 売上 **5,420億円** (2022年度比 120%)
- ▶ 営業利益 **240億円** (2022年度比 304%)

施策

- ▶ バッテリーパウチの生産能力拡大
- ▶ メディカル・ヘルスケア関連投資 **100億円以上**
- ▶ 包装関連の拠点再編

DNPの強み

- ▶ 独自の材料加工技術であるコンバーティング技術を駆使した、さまざまな機能性フィルムで、安心・安全・健康・快適・環境の本質的な価値を提供
- ▶ 世界トップシェアのリチウムイオン電池用バッテリーパウチや、国内トップシェアのPETボトル用無菌充填システムや住宅用内外装化粧材等による実績と信頼

コアテクノロジー例

材料を基材表面に薄く均一に付着させて覆う処理の技術。この技術と基材の設計技術を掛け合わせることで、光学特性・バリア性・耐熱性など、多様な機能を持つ塗膜を形成できる。

真空状態を利用し、気化させた材料をプラスチックフィルム等の基材に蒸着させることで、純度の高い極薄膜を生成する技術。



電子線を照射することで、樹脂や塗膜を瞬時に高機能化する技術。耐傷・耐候・防汚・抗菌・抗ウイルスなどの機能や、機能を長期間持続する耐久性を付与することができる。

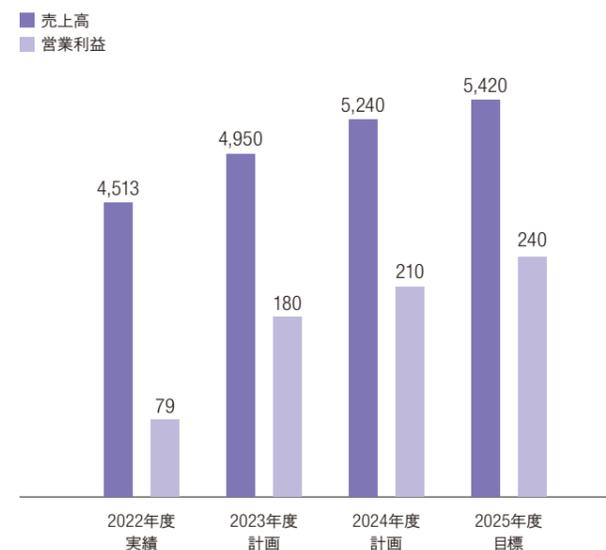
フィルム・金属・樹脂など別々に製造された素材を均一に貼り合わせる技術。用途に応じて複数の機能性材料を貼り合わせることで、より高い性能を持たせることもできる。

独自の材料加工技術であるコンバーティング技術などを活かした新製品の開発、国内外の企業との協業・サービス開発の検討も推し進め、安心・安全・健康・快適・環境の本質的な価値を提供し続けていきます。

これらにより、当部門の2022年度の売上4,513億円、営業利益79億円に対して、2025年度には売上5,420億円、営業利益240億円をめざします。

目標達成に向け、注力事業の拡大への投資と並行して、包装事業等の拠点再編やリソースの最適化なども進めて、事業収益性を高めていきます。

売上高・営業利益目標 (億円)



市場環境

EV+PHEV 世界市場	2022年 世界市場	約 <b>1,050万台</b>
	2023年 → 2030年	<b>CAGR17%、約4,200万台</b>
医薬品 世界市場	2018年 → 2030年	<b>141兆円 → 216兆円</b> (低分子、バイオ、細胞各医薬品合計)

※CAGR (Compound Annual Growth Rate) : 年平均成長率

注力事業領域の戦略

成長牽引事業

モビリティ・産業用高機能材関連

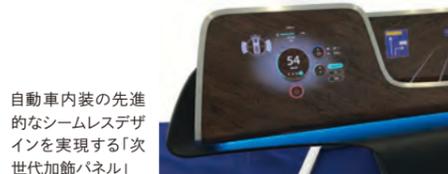
DNPは、リチウムイオン電池用バッテリーパウチや、モビリティの内外装加飾材を起点として、電気自動車（EV）の航続距離の延伸や自動運転、快適な移動空間を支える製品やサービスを提供していきます。EVプラグインハイブリッド車（PHEV）の世界市場の拡大を背景に、DNPはバッテリーパウチ等の生産能力拡大への大型投資を計画。事業全体で2025年度の売上を2022年度比で180%にすることをめざしています。

また、クリーンエネルギー関連やエネルギー管理関連などの産業用高機能材の部材開発も進めています。フィリピンでのデジタル配送管理システムと「DNP多機能断熱ボックス」とを組み合わせたラストワンマイル配送のコールドチェーン物流サービスの実証実験をはじめ、国内外で進めているMaaS\*の早期事業化も推進します。

\* MaaS (Mobility as a Service) : 自動車などのモビリティ (移動手段) をサービスとして提供すること



環境に優しくデザイン性に優れた「外装ルーフ加飾フィルム」

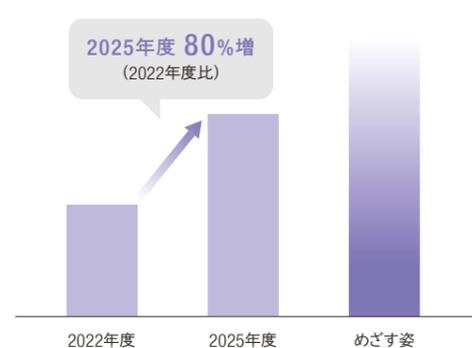


自動車内装の先進的なシームレスデザインを実現する「次世代加飾パネル」

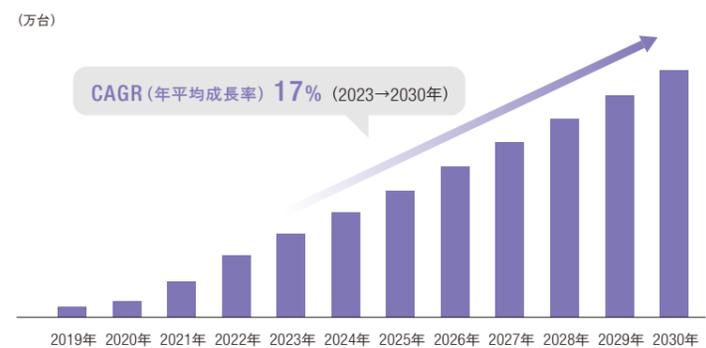
事業戦略・投資計画

- ▶ バッテリーパウチ等の生産能力拡大への大型投資、欧米等適地供給の推進
- ▶ クリーンエネルギー関連、エネルギー管理関連、センサー関連の各部材や、快適移動空間を支えるキーデバイス等の開発を加速
- ▶ 外装用途加飾フィルム、成型・貼合システムの開発、量産化
- ▶ MaaSの実証段階からの早期事業化
- ▶ 産業用高機能材の新製品開発を加速

売上計画 2022年度を100とした時の成長率



EV+PHEVの世界市場見通し 出典: LMC automotive



TOPIC

ワイヤレス充電機能を搭載したEVの車種拡大と実用化を促進

近年、EVへのシフトを加速する技術として、充電器と車体をケーブルで接続する必要がない「ワイヤレス充電」への期待が高まっています。これは、充電作業の負荷軽減と利便性の向上につながる技術です。2023年3月、DNPは双日株式会社、株式会社ダイヘンとともに、ワイヤレス充電機能を搭載した商用EVでは国内初の登録認可を取得し、公道での実証を開始しました。



大電力対応の薄型・軽量な「ワイヤレス充電用シート型コイル」充電イメージ

注力事業領域の戦略

新規事業

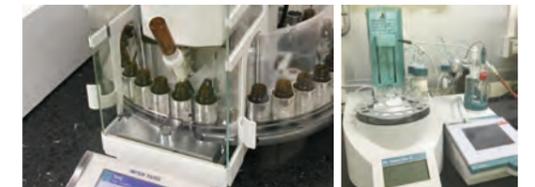
メディカル・ヘルスケア関連

DNPは、長年培ってきたP&I技術 (P&I: Printing & Information) をベースに、食品包装技術を発展させた医薬品パッケージ事業や、精密有機合成技術を駆使した原薬事業を営んできました。また、再生医療等の先進医療分野にも早くから着目し、AIを用いた検査技術などで先進医療事業者の継続的な支援を行うとともに、不妊治療や遠隔診療、健診等の分野で、ICTやオンライン技術を用いたサービスを展開しています。

そのようななかで、医薬品開発支援 (CRO) 事業や医薬品製剤開発・製造支援 (CDMO) 事業等を営むシミックホールディングス株式会社との戦略的業務提携を2023年4月に開始し、製剤事業を営むシミックCMO株式会社に資本参加し、グループ会社に迎えました。

事業戦略・投資計画

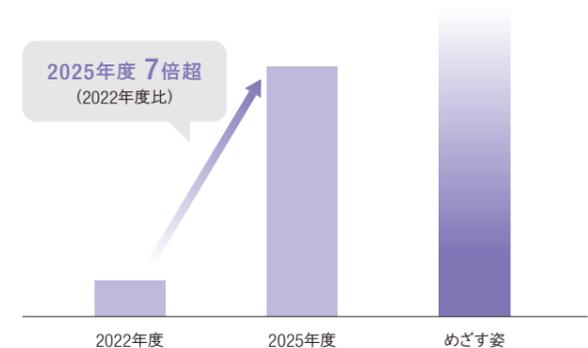
- ▶ DNPファインケミカル宇都宮の原薬事業の拡大、シミックCMOの製剤事業の拡大、ならびに両社連携による医薬品原薬の開発・製造から製剤開発・製造に至る一貫体制の確立
- ▶ DNPのパッケージ技術とシミックCMOの製剤開発技術の掛け合わせによる付加価値型医薬品の開発
- ▶ シミックグループとの協業による治験サポート事業のDX化の推進や、健康の維持・増進、ならびに生活習慣病につながるリスク低減のための未病対策等のヘルスケアソリューションの追求



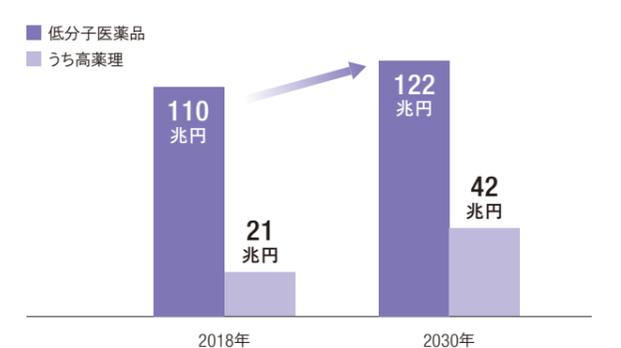
シミックCMO静岡工場と計測機器



売上計画 2022年度を100とした時の成長率



低分子医薬品の世界市場見通し 出典: 各種資料をもとに当社推計



TOPIC

製薬業界のバリューチェーンを支援し、新しい価値を創出

DNPグループのリソースとシミックグループのリソースとを掛け合わせて、製薬企業のバリューチェーンに対してさらに充実した支援を行うとともに、製薬業界や健診・医療の領域での新たな価値提案をめざします。

\* シミックグループ: 1992年に日本で初めて医薬品開発支援事業を開始。医薬品の開発・製造・営業・マーケティング等の支援を総合的にを行っています。



**FOCUS**  
主力製品の  
事業戦略

成長牽引事業 モビリティ・産業用高機能材関連

## リチウムイオン電池用バッテリーパウチ

DNPが強みとするコンバーティング技術等を活かして、業界のデファクトスタンダード構築に努め、グローバル市場におけるプレゼンスを高めていきます。また、さらにバッテリーパウチの用途を拡大し、世界トップシェアを維持・強化していきます。2040年、2050年等の未来に向け、電気自動車（EV）の航続距離の延伸を支える製品やサービスを通じて、安心・安全・健康に暮らせる持続可能な社会に貢献します。

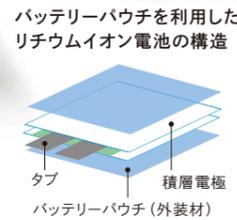


EVのバッテリーでは、走行性能の向上や省エネに向けて、大容量化・軽量化・薄型化を進めています。DNPは、保有するコンバーティング（材料加工）技術等を活かし、リチウムイオン電池の外装材としてバッテリーパウチの開発に取り組み、EVに必要な耐熱性・耐振動性・長寿命化を実現。世界トップシェア

を獲得しています。この製品の需要は、情報端末用や車載用、電動バイク用や蓄電池用など、さまざまな用途に広がっています。

### DNPの強み

- ▶ 世界標準
- ▶ 大型電池用途でも安定した品質実績
- ▶ 自動車産業向け品質マネジメントシステム「IATF 16949」の認証を取得



### 新しい価値を生み出す力



### 価値を見つける先見力

「オールDNP」のコンバーティング技術等を活用し、マーケットの変化やEV化の流れなどを先取り。国内外の電池業界で、バッテリーパウチのデファクトスタンダードを構築。

### 価値を生み出す応用力

食品や医薬品等の包装材で磨いた機能性フィルム（コーティング技術×ラミネート技術）を応用・発展させてリチウムイオン電池の外装材に展開。電池の薄型化・軽量化に貢献。

### 価値を広げる営業力

網羅的な特許出願、自社設計の材料と自社開発の生産設備、社外連携等により競争優位性を強化。高い品質と実績、取引先・顧客企業との信頼関係をもとにグローバルに展開。



中長期のEV需要の高まりを先取りして対応するために、車載向けバッテリーパウチの生産能力増強への投資に注力しています。特に欧米での適地生産を推進し、欧州向けにはDNPデンマーク工場にスリット加工ラインを新設して、稼働を開始しました。米国向けについては、EVの優遇策などによる需要増に向け、

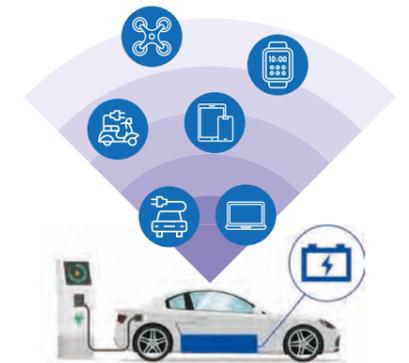
現地での製造工場の建設を検討中です。

こうした事業拡大戦略により、世界トップシェアの維持と生産体制の強化を進め、2025年度までにリチウムイオン電池用バッテリーパウチ全体で、1,000億円の売上をめざしています。

### 事業戦略・投資計画

- ▶ 2023年度以降のEV需要増に向け、生産能力の拡大を検討
- ▶ 欧米等適地供給の推進  
欧州（デンマーク工場）での後工程ライン新設（2023年度稼働予定）

リチウムイオン電池用バッテリーパウチ全体  
2025年までに 売上1,000億円をめざす

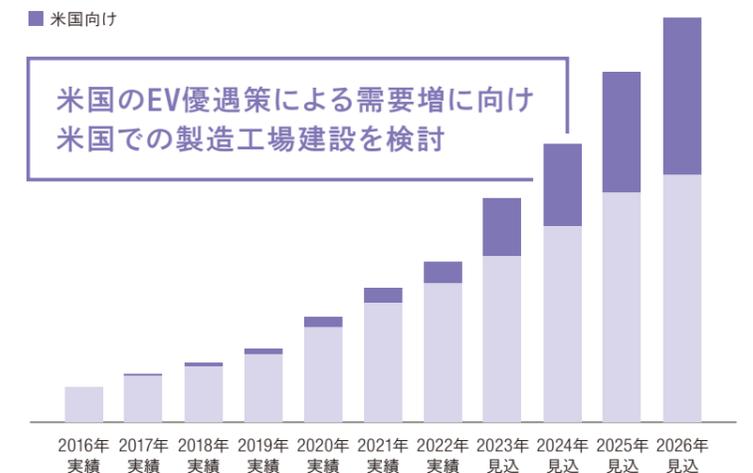


リチウムイオン電池を安全・安心に包むバッテリーパウチの強みを活かし、さまざまな用途に拡大

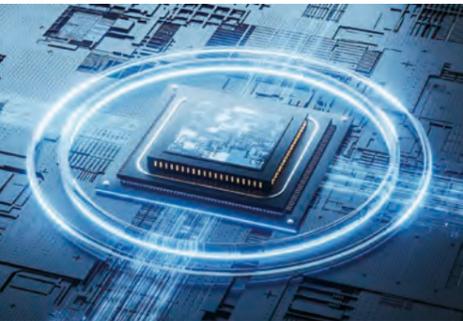
### 市場動向

- |     |  |
|-----|--|
| 短期  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ コロナ禍での巣ごもり需要の反動による消費の落ち込み等、市場影響を大きく受ける</li> <li>▶ 半導体不足による自動車減産等、市場影響を大きく受けるものの、徐々に回復基調に</li> </ul> |
| 中長期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ EV需要の拡大により、好調な推移が継続的に見込まれる</li> </ul>   |

### バッテリーパウチの事業推移と計画（数量）



部門別事業戦略 **エレクトロニクス部門**



主要製品・サービス

**エレクトロニクス部門**

- デジタルインターフェース関連
- 半導体関連

エレクトロニクス部門の主な事業は、世界トップシェアを誇るディスプレイ用光学フィルムや、有機ELディスプレイ製造用のメタルマスクなどの「デジタルインターフェース関連」、半導体製品の製造用フォトマスクや半導体パッケージ用部材のリードフレームなどの「半導体関連」が挙げられます。

DNPは、これらエレクトロニクス部門全体を「成長牽引事業」と位置付け、積極的な設備投資を進めます。

基本戦略

- ▶ 積極的な設備投資で既存事業の拡大を加速
- ▶ コアバリューを活かした新製品開発や、国内外の企業との協業・サービス開発を検討

KPI (2025年度)

- ▶ 売上 **2,300億円** (2022年度比 113%)
- ▶ 営業利益 **520億円** (2022年度比 111%)

施策

- ▶ 有機ELディスプレイ製造用メタルマスク生産能力拡大投資 **約200億円**
- ▶ 光学フィルム等の表面材製品生産能力拡大投資 **130億円以上**
- ▶ フォトマスク等の生産能力拡大投資 **200億円以上**
- ▶ 外部とのアライアンスにより半導体サプライチェーンへの価値提供を拡大

DNPの強み

- ▶ 大面積機能化技術、マイクロ・ナノ造形技術、光制御技術等を駆使し業界最先端製品を開発
- ▶ 有機ELディスプレイ製造用メタルマスクやディスプレイ用光学フィルム等の世界トップシェアの製品による実績と信頼

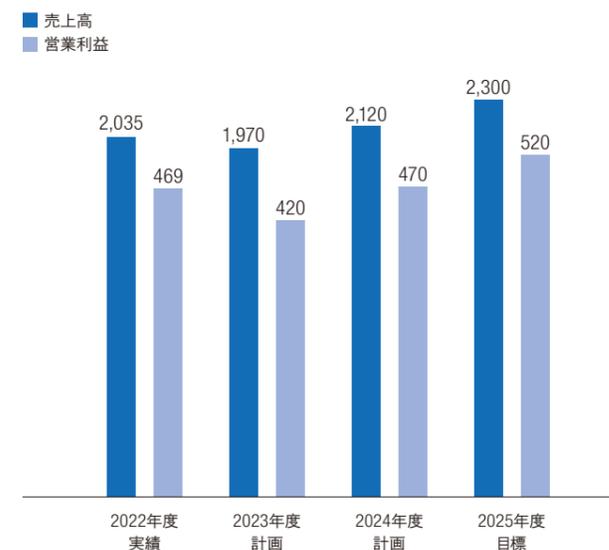
コアテクノロジー例

独自の光学設計技術を核に、精密薄膜クリーンコーティングや液晶コーティングなどのコンバーティング技術を駆使し、多様な機能をもつ光学フィルム製品を提供。	<b>クリーンコンバーティング技術</b>	<b>微細加工技術</b>	<b>パターニング技術</b>	材料を化学的腐食、除去することで所望の構造に加工するエッチング加工技術や、金属、ガラス、樹脂製の型を使って印刷基材にその凹凸形状を複製する賦型(ふけい)技術。
基材表面に塗布した感光剤に光や電子線を使って原画像を描画露光することで、高精細な複製像を形成する技術。	<b>フォトリソグラフィ技術</b>	<b>精密塗工技術</b>	<b>コーティング技術</b>	インキ化した材料を基材表面に薄く均一に付着させて覆うウェットコーティング。基材の設計技術と組み合わせることで、多様な機能を持つ塗膜を形成できる。

DNPならではの強みとして、大面積機能化技術や、“はんこ”を作る微細加工技術から発展したマイクロ・ナノ造形技術、色を整えたり光の反射や屈折などを設計したりできる光制御技術などを駆使して、これからのエレクトロニクス業界での最先端製品を開発していきます。また、外部とのアライアンスにより、半導体サプライチェーンへの提供価値を拡大していきます。

当部門における2022年度の売上は2,035億円、営業利益は469億円であり、2025年度には売上2,300億円、営業利益520億円をめざしています。

売上高・営業利益目標 (億円)



市場環境

ディスプレイの世界市場	2030年	<b>3億平米へ</b>
	2023年 → 2030年	<b>CAGR 3.8%</b>
半導体の世界市場	2030年	<b>100兆円規模</b>
	2023年 → 2030年	<b>CAGR 5%</b>

※CAGR (Compound Annual Growth Rate) : 年平均成長率

注力事業領域の戦略

成長牽引事業

デジタルインターフェース関連

有機ELディスプレイ製造用メタルマスクやディスプレイ用光学フィルムを中心に、ディスプレイの世界市場の拡大に合わせ、積極的な設備投資を進めています。計画では、黒崎工場（福岡県）の有機ELディスプレイ製造用メタルマスク生産ライン新設などに約200億円、三原工場（広島県）の広幅光学フィルム生産ライン新設に130億円以上を投資し、生産能力を拡大します。また、XR（Extended Reality）や車載用ディスプレイなどの用途も拡大していくことで、リアルとバーチャルを安全にシームレスにつなぎ、情報社会の進化に貢献していきます。

これらの施策により、2025年度の当事業の売上を、2022年度比112%へと拡大していきます。



広幅コーティング装置を新たに増設した三原工場（広島県）のイメージ



メタルマスクを用いて製造した有機ELディスプレイのイメージ



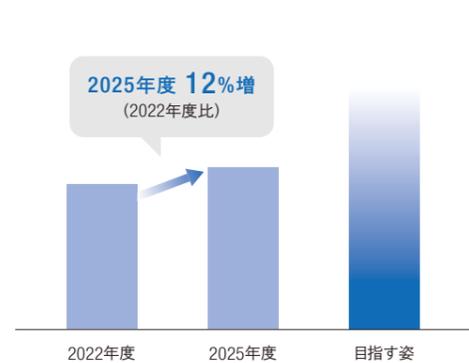
光の反射を制御して照明等の映り込みを低減する「光学設計技術」

事業戦略・投資計画

- ▶ 有機ELディスプレイ製造用メタルマスクの生産能力拡大に約200億円を投資（2024年度稼働予定）
- ▶ 広幅光学フィルム等の生産能力拡大に130億円以上を投資（2025年度稼働予定）
- ▶ XR、車載ディスプレイ等用途・アプリケーションを拡大

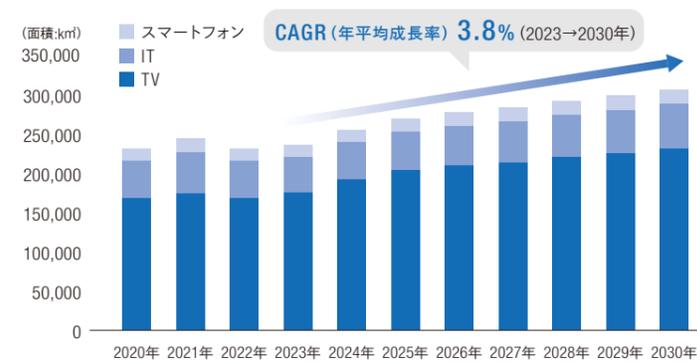
売上計画

2022年度を100とした時の成長率



ディスプレイの世界市場見通し

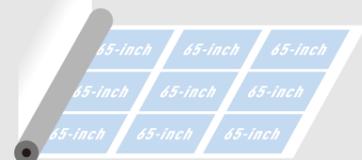
出典：各種資料をもとに当社推計



TOPIC

高性能光学フィルムの広幅コーティング装置を増設

大型テレビ向けの光学機能性フィルムの製造に最適な最大2,500mm幅に対応可能なコーティング装置を三原工場（広島県）に増設。2025年度上期に量産を開始する予定です。生産能力は面積ベースで従来と比較して15%以上向上。65インチ（ヨコ1436.4mm×タテ809.0mm）の大型テレビ向けのフィルムの生産性を引き上げます。



注力事業領域の戦略

成長牽引事業

半導体関連

半導体製品の製造用フォトマスクおよび半導体パッケージ用部材のリードフレームを中心に、半導体サプライチェーンのなかで必要不可欠なファインデバイスを提供しています。フォトマスク等の生産能力拡大に向け、国内外の生産拠点で総額200億円以上の設備投資を計画し、外部とのアライアンスを推進していきます。また、半導体製造工程での消費電力を削減するナノインプリント技術の開発にも取り組んでいます。SCIVAX株式会社との資本業務提携を行い、共同出資会社であるナノインプリントソリューションズ株式会社を通じて、モバイルデバイス用光学素子やバイオデバイス素子などの量産化を加速します。

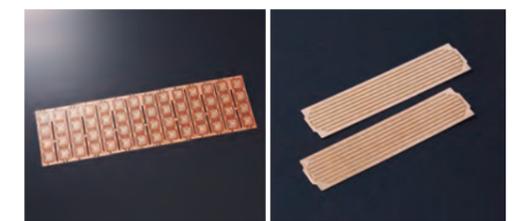
これらにより、当事業の2025年度売上を、2022年度比115%へと拡大していきます。



半導体用回路原版（フォトマスク）

事業戦略・投資計画

- ▶ 国内外のフォトマスク等の生産能力拡大に200億円以上を投資
- ▶ SCIVAX社との資本業務提携と、共同出資会社ナノインプリントソリューションズ社により、モバイルデバイス用光学素子やバイオデバイス素子などの量産化を加速
- ▶ 外部とのアライアンスにより半導体サプライチェーンへの価値提供を拡大

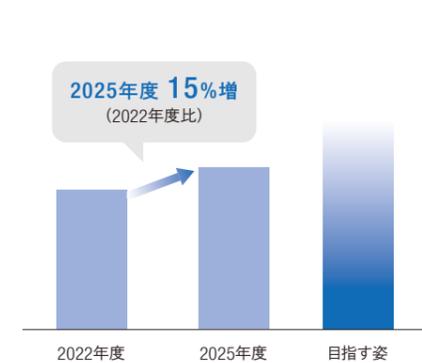


小型半導体パッケージ用リードフレーム

ペーパーチャンバー（金属製放熱用部材）

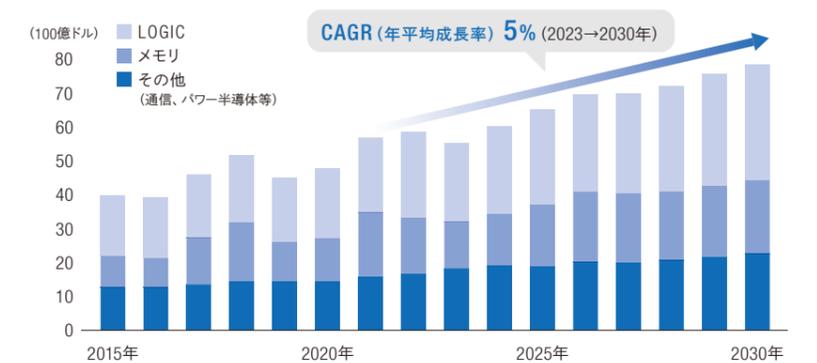
売上計画

2022年度を100とした時の成長率



半導体の世界市場見通し

出典：各種資料をもとに当社推計



TOPIC

ナノインプリント製品を量産するファウンドリー事業で資本業務提携

DNPの強みである最先端ナノインプリント用原版（マスターモールド）製造技術と量産・品質管理ノウハウ、SCIVAX社の強みである高精度な量産製造設備と装置設計技術などを掛け合わせていきます。国内外メーカーの量産ニーズにも迅速に対応できる体制を日本国内で整備するとともに、グローバルなサプライチェーンリスクへの対応にもつなげていきます。

